

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度 第1回 所沢市環境審議会																											
開 催 日 時	令和5年5月19日(金) 14:00~16:00																											
開 催 場 所	所沢市役所高層棟7階 研修室																											
出席者の氏名	天野正博、柴田晋吾、鈴木由紀子、秋元智子、本澤智巳、倉片順司、大庭祥誠、戸邊和幸、羽田野崇、川原博満、坂根裕子、足立圭子、神谷葵																											
欠席者の氏名	横内ゆり、石川桃子																											
議 題	1 開 会 2 会議の運営についてご説明 3 事務局からのご報告 4 議 事 (1) 所沢市脱炭素ロードマップ(案)について (2) 所沢市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(案)促進事業について (3) その他 5 閉 会																											
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1 「(仮称)所沢市脱炭素ロードマップ」(案)</li> <li>資料2-1 地域脱炭素化促進事業の促進</li> <li>資料2-2 促進区域から除外する区域(案)</li> <li>資料2-3 市街化区域</li> <li>参考1 削減目標達成に向けた必要量・取組案</li> <li>令和5年度 所沢市環境審議会委員名簿</li> <li>マチごとゼロカーボン市民会議 報告書</li> <li>所沢市脱炭素社会を実現するための条例</li> </ul>																											
担 当 部 課 名	<table border="0"> <tr> <td>環境クリーン部</td> <td>部 長</td> <td>安藤 善雄</td> </tr> <tr> <td></td> <td>次 長</td> <td>稲子谷 昂子</td> </tr> <tr> <td></td> <td>次 長</td> <td>市川 勝也</td> </tr> <tr> <td>マチごとエコタウン推進課</td> <td>課 長</td> <td>齋藤 伸宏</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主 幹</td> <td>三浦 直子</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主 査</td> <td>大館 徹</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主 任</td> <td>濱本 恵代</td> </tr> <tr> <td>みどり自然課</td> <td>課 長</td> <td>加賀屋 浩介</td> </tr> <tr> <td>資源循環推進課</td> <td>課 長</td> <td>山屋 貴裕</td> </tr> </table> <p>環境クリーン部マチごとエコタウン推進課 電話 04-2998-9133</p>	環境クリーン部	部 長	安藤 善雄		次 長	稲子谷 昂子		次 長	市川 勝也	マチごとエコタウン推進課	課 長	齋藤 伸宏		主 幹	三浦 直子		主 査	大館 徹		主 任	濱本 恵代	みどり自然課	課 長	加賀屋 浩介	資源循環推進課	課 長	山屋 貴裕
環境クリーン部	部 長	安藤 善雄																										
	次 長	稲子谷 昂子																										
	次 長	市川 勝也																										
マチごとエコタウン推進課	課 長	齋藤 伸宏																										
	主 幹	三浦 直子																										
	主 査	大館 徹																										
	主 任	濱本 恵代																										
みどり自然課	課 長	加賀屋 浩介																										
資源循環推進課	課 長	山屋 貴裕																										

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	開会・あいさつ
会長	あいさつ
事務局	出席者の確認、審議会規定より過半数の出席により会議の成立を確認。所沢市立若松小学校前校長 櫻井氏に代わり、所沢市立柳瀬小学校校長 本澤氏が委員に就任。
事務局	傍聴者1名が入室。
事務局	「マチごとゼロカーボン市民会議 報告書」「所沢市脱炭素社会を実現するための条例」について事務局より説明。
委員	<p>〈質疑応答〉</p> <p>市民会議の報告書におけるダイアグラムは興味深いと思う。非常に分厚い報告書なので、ペーパーレスであればもっと良かった。この報告書は市のウェブサイトなどで公表されているのか。</p>
事務局	市のホームページで公開している。ただホームページで出すだけでなく、随時、公開されていることを周知していきたいと考えている。
委員	参加した市民の知識のレベルにばらつきがあったと説明されたが、市民会議には市民の理解が深まるという意味もあったと思う。そのあたりどうか。
事務局	<p>市民が会議に参加したことで、参加者自身の行動が変容するということが今回の目的の一つであった。会議開始前に取ったアンケートでは、環境行動に「興味がなかった」と答えた方が20%くらいいたが、第5回の後に同様の質問をしたところ、環境行動を「実践していない」と答えた方が0%になった。これにより参加者の行動変容に繋がったと評価している。</p> <p>もう一点付け加えると、他市の市民会議では脱落者が問題になったと聞いている。今回所沢で行った市民会議では、「この会議が嫌だから行きたくない」という人は一人もいなかったと認識してい</p>

<p>会長</p>	<p>る。</p> <p>気候市民会議について補足したい。どうして世界各地でこのような市民会議を開くようになったかという、世界全体の悩みが発端となっている。IPCCの第5次評価報告書までは、技術さえあれば、化石燃料の使い方や自動車の燃料などを変えることで、地球温暖化は止めることができると考えられていた。ところが、その後も温室効果ガスの増加が止まらない、技術だけでは解決できないということがわかり、第6次評価報告書はエンドユース、あるいはエンドユーザーに重点を置いた。それまでのシナリオは、技術をどれだけ開発するかということに終始していたが、社会経済状況・条件を変えなければならないこと、一般市民が関心を持たないと解決できないことがわかってきた。それを進める方法の一つが、気候市民会議だった。これには色々な知識レベルの人が参加する。関心が深い人だけを呼ぶこともできたが、わかる人もわからない人も含む実際の社会の人たちが全体でまとまらなければ解決できないため、最初から熱心な人だけ集めるということはず乱数でやることになった。日本でも色々な地域で実施したが、そこで脱落者がいて悩むこと自体も一つの大きな材料になった。関心がある人・ない人が集まったときに、考えをうまくまとめることができなければ、脱炭素は達成できない。こうした背景があり市民会議が開かれるようになったということを頭に置きながらこの報告書も読んでいただけると良いと思う。我々の審議会も、色々な市民がいることを頭に置きながら議論して頂きたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(1) 所沢市脱炭素ロードマップ(案)について</p> <p>資料1 「(仮称)所沢市脱炭素ロードマップ」(案)にもとづき事務局より説明。</p>
<p>委員</p>	<p>〈質疑応答〉</p> <p>p.2について、「みどりの保全・創出」とあるが、これは、生物多様性の方から抜き出されている言葉か。私の考えでは保全・創出だけでは足りない。例えば所沢では雑木林がゴミ捨て場になっているところもある。みどりがあるだけではなくて、それを活用しなければならぬため、「みどりの保全・創出」に「活用」も入れていただきたい。森はあるけれど使われない、単なる二酸化炭素吸収源とするのではなく、積極的に使っていく。森があるのに誰も入らない</p>

	<p>という状況を変えていかなければならない。</p>
事務局	<p>活用という言葉は、例えば、教育の場としての活用や、次世代の子どもたちのための活用といったイメージで受け取った。活用という言葉を入れるような形で検討していきたいと思う。</p>
委員	<p>国レベルでも日本は「森林サービス産業」が注目されている。森を健康、レクリエーション、セラピーなど色々なことに使っていく。例えば東京の人は自然に飢えている。「SANU」という別荘ビジネスは5000人待ち、「forenta」というキャンプ会社は全国に広がっている。森があるということは是非それを利用していかないと、ゴミ捨て場や倉庫になってしまう。</p> <p>それから p.3 について、「脱炭素経営に向けた取組に賛同・実践している事業者数」とあるが、これは非常に幅広いように思う。賛同している方から、何か一つ取り組んでいる方、かなり大規模に取り組んでいる方など、すべてここに含まれるのか。どういう事業所が該当するか。</p>
事務局	<p>今の質問は、p.3 の「脱炭素経営賛同事業者数」の指標について、大雑把ではないかというご指摘だと感じたが、ここについては事務局内でも議論になった。市内に6,500社ほど、事業所だと10,000社ほどあるかもしれない。その事業者が脱炭素経営にシフトしていくことをどう把握するのかという点がまず問題になった。次に、どのレベルでやっている所をカウントするのかという点が問題となった。例えば大企業では2030年までに50%削減するといったような宣言をしているところもある。しかしながら、所沢の中小企業がそれをできるかという、まだ難しいのではないかと、2030年までに4,000社というのも厳しいのではないかとといったことも考えた。それであれば初めて指標を入れた今のステップとしては、脱炭素経営にシフトすることを表明した事業者をまず捉えていこう、まずは動機付けをさせていきたいという考えで、このような曖昧な指標になっている。</p>
委員	<p>それでは、ここは明確に「取組を実践する意思のある事業者」と記載した方がよろしいのではないかと。</p>
事務局	<p>参考としたい。</p>

委員	<p>また、次に p.4 の長期優良住宅について、これは国の基準かと思うが、制度設計としての寿命は何十年になっているのか。日本は欧米と違って、数十年で建売住宅を立て直しており、そのやり方を変えなければいけないと思うが、長期優良住宅は何年を寿命として考えているのか。</p>
事務局	<p>長期優良住宅の認定基準として、「長期」というのが何年を指すのか、申し訳ないがそこまで把握していない。今回この指標に選んだのは、長期優良住宅の認定を受けた住宅の環境性能が ZEH レベルにあるということから、そのレベルの住宅が所沢に何棟建ったかを把握するところに視点を置いている。改めて調べたい。</p>
委員	<p>先ほどの委員の意見で緑の保全に「活用」を入れるということだが、普通「保全」には「活用」も入っている。「保護」と「保全」の違いと認識している。加えるならば、生物多様性を入れて頂きたい。どこでも入って何でもやっていいのではなくて、やはり生物多様性を守っていかないと、持続可能にはならない。</p> <p>また、市内事業者については、例えば、上尾市で面白い取組をされており、中小企業が多い「ものづくり会」というような会をつくって、そこでお互いに切磋琢磨しているところもある。そういうところに話を聞くのも良いと感じた。</p>
委員	<p>今の委員の質問に関連して、生物多様性というのは国レベルでも 30by30 という目標があり、民間の保全地域をどんどん作ろうとしている。所沢市にもたくさん候補地があるのではないかと思うので、ぜひ検討してほしい。</p>
会長	<p>なぜ保全に「活用」が含まれるかという話に補足する。生物多様性条約については、以前愛知の会合で名古屋議定書が作られた。日本の生物多様性というのは里山林のようなもので、人の手が入ったところに色々な多様性が隠されている。逆に言うと、里山林が放置されてしまうと、その生物多様性はどんどん減ってしまう。昔のような里山林の活用が始まると、我々のイメージする日本の生物多様性は回っていく。とにかく放っておくのではなくて、行政が補助金を出すなどして絶えず森林を管理していかないと、「保全」は上手くいかない。こういうことを頭に置いて頂けると良いかと思う。</p>

事務局	<p>この「保全と創出」という言葉に、「保全」とはどういうことを指すのか、注釈を入れる形で記載していくのはいかがか。</p>
会長	<p>みどり自然課長も同席しているのでご意見があれば伺いたい。</p>
事務局	<p>緑の保全に関しては、生物多様性という言葉を加えていただきたい。多様性を含めた上での活用としたい。記載の表現方法としては、事務局の方で検討させていただければ有難い。</p>
委員	<p>緑の保全について、所沢市と東京都の境に八国山という山がある。半分は東京都のもので、東京都側は東村山市や地主の協力や寄付を頂いて公園にしている。反対の所沢市側には、山の中に赤いライトが灯っている。所沢市は場所によってみどりがたくさんあるところと全くないところがある。大変貴重な山に対して、所沢市が手を差し伸べて頂けると、建売がどんどん建たなくなる。なくなった樹木に対してそれ以上の植え付けをまちなかに実施して頂きたい。緑を残すためには、買ってそれを私たち市民が管理していくことが大事だと思う。</p> <p>ソーラーパネルについても言及したい。ソーラーパネルは、ソーラーパネルの処分など大変問題になっていながら、計画書案に出すのはおかしい。</p>
事務局	<p>まず、ソーラーパネルについて回答する。所沢市は海もないし、山も本当に大きな山があるわけではなく、風力なども望めない。所沢市において選択できる、導入できる再生可能エネルギーはソーラーパネルしかないのが現状である。他にも新たな技術として、バイオマスなど次世代の可能性も勿論あるが、今できることを考えると、ソーラーパネルしかないと考えている。もう一つ、廃棄の問題については、非常に重く受け止めている。10年ほど前からFIT制度の影響で、どんどんソーラーパネルが導入された。今10年ほど経過して、さらにもう10年経つと大量廃棄時代が来ると言われている。この太陽光パネルをいかにリサイクルするか、不法投棄させないかについては、導入と同時に両輪で取り組んでいかなければならないと考えている。</p>
事務局	<p>緑の部分に関しては、市は緑を増やす方向に大きく舵を切ってい</p>

	<p>るが、見えてきた課題は、緑を管理・維持していく担い手がだいぶ少なくなっているということと、それに伴う維持管理費の捻出である。市役所のお金だけで回せるものなのか、民間の力も活用しながらやっていかなければいけない時代に来ているのか。そういった諸々を含めて検討を進めたい。</p>
委員	<p>一つ伺いたい。p. 2 の削減イメージ図では、2050 年あたりの所で CO<sub>2</sub> の排出量が横軸より下にあり、マイナスの排出量のイメージとなっており、その横に森のマークが記載されているが、これは森林吸収源のマイナス分をイメージされているのかと想像した。その場合、市としてはどの程度森林が吸収源として寄与すると見込んでいるのか。p. 8 で見ると面積の割合を増やすような指標になっているが、最終的には二酸化炭素の吸収量を指標とするのか伺いたい。面積を増やすという指標に留めるのであれば、保全・活用としては有効かもしれないが、本資料はゼロカーボンシティの計画であるため、二酸化炭素の排出量としてどこまで踏み込んで、どう寄与していくのかをお伺いしたい。</p> <p>もう一点コメントしたい。資料の他のグラフをみると、単位が%のみになっている指標がいくつかあるが、基準年の母数を書いて頂いた方が、規模感がわかって良い。そうすると指標の達成がどれだけ大変か理解しやすいと思う。</p>
事務局	<p>資料の記載について母数を加えることについては、書き方を工夫したい。もう一点、p. 2 に吸収量をイメージした矢印を書いておきながら、p. 8 ではみどりの確保量しか書いていないという点について、吸収量まで踏み込んで書いてはどうかというご指摘だと理解した。所沢市には狭山丘陵含め緑があるが、現状、二酸化炭素吸収量を計算することが非常に困難で、ここの指標に入れられず苦慮しているというのが正直なところである。そこのあたりについては天野先生のご知見などを頂きつつ、指標を示すことができるか検討したい。</p>
会長	<p>人が手を加えた樹木だけを吸収源にするというのは今までのやり方である。ただ、脱炭素を考えたときは、すべての樹木の吸収量となるかと思う。1 本あたり約 14kg-CO<sub>2</sub> で、それを本数にかける形で計算する。所沢市の 2050 年の吸収量目標については、すべての樹木を対象としていると思う。</p>

委員	<p>p. 8 について、みどりの確保量の目標値が 18%ほど増えることになっているが、これは面積によって増えるということか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
委員	<p>これだけ増やすのは大変だと思うが、具体的にはどういったことに取り組むのか。</p>
事務局	<p>現在、緑を増やすために行っていることは、まず土地を持っている方の相続などのタイミングを見計らって、用地買収などを進めている。街の中の土地に関しても可能な限り進めたいという思いはあるが、予算など現実的な問題があり進んではない。代替わりなどのタイミングでみどりを手放したいという方がいた場合には、積極的に手を挙げていきたい。道路など新たに別のものになる前の段階でも、みどりとして残していけないか模索している段階である。</p>
委員	<p>実際にできればすごいことだと思う。だが、放っておくと建売住宅になりやすい、みどりが無くなる方が多いというのに、18%もプラスにするというのはかなり大変ではないか。</p> <p>もう一点吸収量の話だが、森が増えれば吸収量も増えるが、人為的・追加的な活動を行わずに自然の働きで増えた分をカウントすることはおかしいのではないかと思う。</p>
委員	<p>取組を読ませて頂いて、5 点ほど気になる部分がある。</p> <p>まず交通について、EV や水素自動車など低炭素型の自動車を増やしていくというように書いてあるが、この場合は自治体として、充電・水素供給インフラを整えていかないと促進は難しいと思う。国の補助金など活用しながら、インフラの整備を進めて頂きたい。</p> <p>次に建築物について、新築住宅もあるが、ストック住宅を自治体としてどうしていくのかポイントだと思う。窓の断熱といった改修を進めていく方にも力を入れて頂きたい。</p> <p>次に事業者については、事業者の脱炭素経営に向けて、銀行が ESG 投資などの商品も作っていると聞く。所沢市の中小事業者が脱炭素で活性化できるように、銀行と協力して ESG 投資などを促すといった政策もあるのではないか。取組に賛同した事業者が脱炭素に取り組むための支援などもあると思うが、民間の力も利用しつつ投資対</p>



	<p>象を増やしたり、中小事業者の事業活動を改善したりすることも、産業商業部門と連携してできるのではないかと。</p> <p>次に太陽光発電については、2050年までには技術開発も進んでいると思う。薄い太陽光パネルも開発されて導入も始まっているので、2050年までにはリサイクルなどの仕組みも整っているのではないかと。そうしたところで、所沢市の経済活性化も視野に入れ、市内事業所を活用することが重要なのではないかと。脱炭素と同時に市内の経済が活性化していくようなロードマップが足りないと感じた。</p> <p>最後に樹木についてだが、吸収量について今までは面積で考えていたかと思う。それが1本1本という話だと非常に大変だと思った。所沢市内の森林では、脱炭素に向かうほどの吸収量は得られないと思う。再生可能エネルギーも兼ねながら、地方との交流をつくっていくことが重要なのではないかと。都市型の自治体として、地方と交流して再エネを買う、地方に行ってお金を落とすなど、交流しながら地方も所沢市もwin-winの関係をつくっていくことが重要なのではないかと。木を増やすのに予算がないという話もあったが、森林譲与税なども活用しながら、市の樹木を増やしていけば良いと思う。吸収以外にも蒸散作用などもあるので、都市のみどりは重要である。ヒートアイランド対策も兼ねながら進めていただきたい。</p>
委員	<p>複数の下流の都市群と上流の都市群が連携して、森林譲与税を活用して下流の町の脱炭素化の取組をしている事例もある。例えば、所沢の周辺の秩父市などと組んで連携することも可能だと思う。</p>
委員	<p>p.6の指標で、「市域における新車販売台数のうち、次世代自動車が占める割合」とあるが、この指標がゼロカーボンに影響してくるのだろうか。今やネット販売等の方法もある中で、この数字が本当に指標になるのか。市内における各家庭の保有数、保有率などの方がゼロカーボンに向けた指標としては適しているのではないかと感じた。</p>
事務局	<p>次世代自動車については、統計として可能な限り実際に即した近いものを取りたいと考えており、引き続き検討したい。保有台数については、今後脱炭素社会に向かっていくためには、皆が車をやめて、公共交通に切り替えていく社会の在り方が大事だと考えている。その点については事務局の方でも検討したが、「車を減らす」</p>

<p>委員</p>	<p>という指標を入れた場合、どれだけ「公共交通の利便性を向上させたか」という施策と両輪であるべきと考えている。台数を減らす指標も入れたいところではあるが、公共交通の利便性の極端な向上が現時点で難しいため、今回は記載していない。</p> <p>指標の「脱炭素経営賛同事業者」が何を意味しているのか聞きたいと思った。電気代が高騰して経費を圧迫している中では、LEDを使ったり空調を変えたりと電気の効率化を図るという意味で、結構な数の事業者が少なからず努力していると感じている。特に大手企業はSDGsに取り組んでいないと取引しない場合もある中で、各事業者が動いている印象は間違いなくある。ここでは脱炭素経営に賛同する事業者は多いのではないかと思うと同時に、金融機関からの啓発も必要だと感じている。</p> <p>もう一つ、みどりのパートナー登録者数の増加目標値について、所沢市の人口から考えて多いのか少ないのかはわからないが、もっともいいのではないかと思った。2030年までを考えると市の人口が急激に減ることはないと思うが、この数字が適切であるのか。分母を入れて%表記にした方がわかりやすいかもしれない。</p>
<p>委員</p>	<p>住宅の断熱性能に関する指標については、単位が件数になっているが、%の方がふさわしいのではないかと感じた。新築住宅の大部分を断熱性の高いものにしていくことが大事だと考えると、その割合を増やしていくことが必要であると思う。建物の着工件数は景気に左右されるので、割合の方がふさわしいと感じた。</p> <p>また、温室効果ガスの削減目標が51%と高くなっており、ここで一番大きく影響するのが、電力の排出係数だと思う。ただ、二酸化炭素排出係数が様々な情勢の変化によって当時の国の見通しどおりに進むにはなかなか厳しいと考えており、目標値を達成するのは難しいのではないかと思う。その場合に、せっかく策定した計画で目標と乖離するというより、参考1のような所沢市の独自の政策も併せて目標設定に組み込んだ方が実際に進めていく上でのモチベーションとなるのではないかと思う。前回もこの議論はあったかと思うが、ご検討いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>現実問題として、中小企業の人達が動くためには何かメリットがないといけないと思う。市の環境が良くなる、市の空気がきれいになるというだけでは動かない。逆に何かメリットがあれば、動きや</p>

	<p>すいのではないか。また、EV車の話で、電気を使った車を増やしても、その電気を作るのにも二酸化炭素を排出するのではないか。現在、電気が足りないということがあるが、果たしてそのような中でEV車が使えるのだろうかと思う。さらに電気代も上がっているし、損得で動く人が大半なため、これだけお得だということを明確にすれば人は動くのではないか。役所の人はそういう感覚が足りない。</p>
<p>委員</p>	<p>p.4の「③もったいないの心による廃棄物対策の推進」の中で、やはりお得がないと動かないというのは自分としてもある。EV車を使うためにも、電源がある家を探す必要があり、人が動くのは難しいと思う。市民会議については、昨年度だけで終わってしまうのか、今後も続くのかが知りたいと感じた。</p>
<p>事務局</p>	<p>市民会議については、今回の反省点を生かしたやり方があると思っている。再度、募集方法やメンバー等考えて検討していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>所沢市環境連絡協議会は、1,300人で構成されており、1年間勉強してきた。カーボンニュートラルは、市民がやらなければいけない、企業がやらなければいけない、市もやらなければいけない。でも数が多いのは家庭であるので、市民一人一人がカーボンニュートラルに向かって、取り組まなければ達成できないものである。所沢市環境連絡協議会の報告書では、所沢市環境連絡協議会の役員に勉強会後の感想文を書いてもらい、理解をしてもらっていた。今年も同じような取組を行っていくが、これは市民に言葉の難しさを教えるのではなくて、生活の中の共通点としてカーボンニュートラルがあるので、それに対してやっていこうという勉強会をやってきた。是非、市民の切実な思いが詰まっているので、報告書を見て頂きたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>p.10の指標「環境学習関連講座の参加者数」について、環境学習は何回ぐらい開いて、1回あたり何人ぐらいが参加するものなのかお伺いしたい。また、現在、電気代が高騰しており、電気代を少しでも下げたいと思って断熱工事などを行う際にも、すぐ補助金がなくなってしまうことがある。そうしたところを手助けして頂いたり、そう思ったときにどこで相談したらいいのかわからないので、以前も相談窓口について意見したが、事業者も相談窓口が欲しいと思う。情報発信よりも相談窓口を設けて頂くとありがたい。</p>

委員	<p>今日参加するまで、学校現場で何ができるかを考えてきた。数年前の教科書を比べても、最近では SDGs の視点がかかなり取り入れられており、また、学校における環境に対する取り組みは格段に増えている。所沢市では例えば「地球にやさしい学校」という取組を全小中学校でやっている。しかしながら、温室効果ガスの削減目標についてどれくらい知っているのかと投げかけたとしても、子どもたちも教員もそこまで知らないのではないかと思う。2030 年までの 7 年間で子どもたちの意識を変えていくかは難しく、2030 年時点でも子どもたちは社会の担い手にはなれないが、その中でも子どもたちの意識をどう変えるかが重要なんだろうと思う。市が 2030 年度までに 51%達成するという本気を見せるのであれば、ここで話していることをわかりやすく子どもたちにわかるように伝えていくのが大事だと思う。</p>
事務局	<p>学校との連携に関しては、環境教育はこれまでも長い間かけてやってきている。例えば、小学校の 4 年生向けに「私たちの環境」という冊子を配り勉強してもらっている。その他、SDGs や環境、地球温暖化のことを学べる出前講座を開いている。今後も、そのような機会を増やしていくなど、教育委員会とも連携していきたい。</p>
委員	<p>p.9 で「学生への環境教育」とあるが、学生とは誰のことを指しているのか。</p>
事務局	<p>小学生、中学生、大学生、あるいは専門学生という若い世代で考えている。記載については検討したい。</p>
委員	<p>例えば、今世界的に流行っている野外保育、森の幼稚園など幼児から向き合うのも大事だと思う。また、大人への教育も大事だと考える。</p>
委員	<p>是非、2030 年、2050 年をイメージしながら検討して頂きたい。</p>
事務局	<p>議題（2）所沢市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）促進事業について資料 2-1、2-2、2-3 に基づき事務局より説明。</p> <p>〈質疑応答〉</p>

委員	<p>ロードマップを見ると、ソーラーシェアリングも促進していくこととなっているが、こちらの促進事業では「住宅や事業所等の建築物の屋根及び屋上」と記載されており、その整合性をどう考えるのか。また、屋根に取り付ける場合は環境アセスメントが不要だと思うが、促進区域において、事業者から設置の申請があった場合は、毎回それを検討するのか、設備容量によって促進事業に該当するのかといった要件を設けるのか。さらに、地域の事業者に参加頂くためにも、自治体には設置したい人と事業者とのマッチングの役割を担って頂けたらいいと思う。</p>
委員	<p>事務局のご説明で、基本的に森をつぶして太陽光発電を設置することはしないと理解した。もし促進区域外の森をつぶして太陽光発電を設置したいという申請があった場合に、同じような推進体制とプロセスで議論することになるのか。また、農地の中に太陽光発電を設置することについては、どのように考えているか。</p>
事務局	<p>まずソーラーシェアリングについて回答する。p.2「(2) 地域脱炭素化促進事業の対象となる区域」において「促進区域外であっても、促進事業の提案が行われた場合には、個別に促進区域として設定することも検討します。」と記載した。所沢市は、全国の中でも唯一と言ってもいいくらいソーラーシェアリングは補助金を出している自治体であり、再エネの普及の施策の一つとして考えているため、個別の案件にも対応できるようにこのように記載している。</p> <p>促進事業の要件については、設備容量などによって促進事業とするか否かという規制は特に考えていない。促進事業の事業者のメリットとして、促進区域において認定されることによって手続きが簡素化されるものであるため、促進事業以外での設置については通常の開発許可などの手続きを踏んで頂くことになる。</p> <p>マッチングについては、非常に参考になる意見であり、促進区域を設定するだけでなく、今後検討していきたい。</p> <p>開発については、お見込みのとおり、市の方針として森をつぶして太陽光発電を設置することはしない。ただ、地権者や発電事業者が法令に則って開発行為を行う場合、現時点では市としてガイドラインや条例がないので、それについてこの審議会では議論しかねると考えている。</p>
委員	<p>農地についてはいかがか。</p>

事務局	<p>農地については、ソーラーシェアリングでも市としては営農をしっかりやって頂く事業者が参入して頂くのであれば太陽光発電の導入を応援していきたいと考えている。</p>
委員	<p>例えばふるさと緑の景観地や特別緑地保全地域など樹林地にはいろんな指定があるが、樹林地の地主がそうした樹林地の指定を受けていなければ、そこで開発が進められる場合も考えられると思うが、それはどのように考えているか。</p>
事務局	<p>資料 2-2 のリストは、太陽光発電の設置を望まないものと考えてほしい。そして市内ではどのような場所で設置ができるのかというのが、資料 2-3 の市街化区域の色付きエリアである。白い部分は、市街化調整区域であるので、ここが設置してほしくない場所に該当する。促進区域とするのは、この色付きエリアである。委員が懸念するような地域は、促進区域とはしない。それでも開発が行われる場合は、それぞれの保全区域を指定する法令に従って規制を行っていくことになると考えている。</p>
委員	<p>ソーラーパネルと簡単に言うが、メンテナンスや使用期間などについて問題も出ているということも念頭に置いて推進すると言っているのか。家庭にソーラーパネルを設置することに対してのデメリットなどもきちんと説明して推進してほしい。2 人の大学の先生に来ていただいているが、ソーラーパネルのデメリットについては、どのように考えているのかを教えてください。</p>
会長	<p>デメリットは、コストがかかってくる点であるが、不可能ではない。それを使用者がどのように考えるかだと思う。逆に、太陽光発電を諦めるとなると原子力なども考えられるが、結局はコストと将来の世代のことを考えて総合判断しなければならない。少しでも危険があれば止めるということだと、今度は地球温暖化のリスクが高まる。リスクの大きさをどう考えるかということだが、研究者たちは、リスクに対して少しでもメリットがあれば推進せざるを得ないと考えている。</p>
委員	<p>結局、消去法だと思う。実際に、所沢市で可能なものは太陽光発電ぐらいしかない、他にはないということだと思う。コストを比較</p>

会長	<p>しても、太陽光発電のコストも毎年下がってきており、今や石炭や石油と変わらないくらいになっている。</p> <p>これに関しては、議論が尽きないので、また今回の意見をもとに資料を反映して頂いて再度議論できれば思う。</p>
事務局	<p>事務局から今後のスケジュールについて説明。</p> <p>閉 会</p>